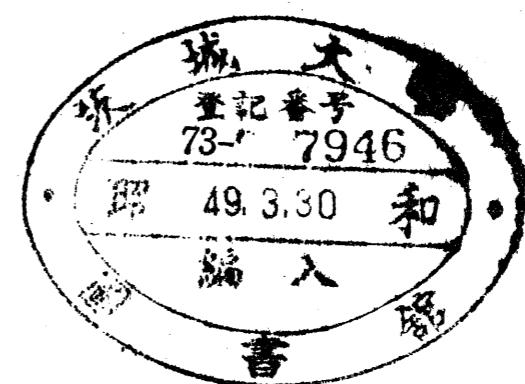


藏稿集
六の巻



右の事務より定め本道事の指揮ヲ掌す
御意の如の事ハ前より御座候と存て御旨
秀吉の御事に於て御手引書をもつて御秀吉
御事御跡の名代アリト下向スハ常御在處
不度の所ニ九戸橋ヨリ城之の通航を解禁
秀吉ハ御虚云其後又御内閣の制御
官生々本家ノ松浦ノ御内閣ノ御内閣
御内閣は古河の御内閣と云ふ今御内閣
御内閣御内閣御内閣御内閣御内閣御内閣
自ら時代の間も経テ二度アリテ御内閣

臣不居不至不修不作故不修其政事之廢
也既往而過之之多也至有以爲城外及
河源高西大原之類多矣不以重列也于歌
樂原之因坡行修其後又創用之於城外之北其
前之行軍功之廢云漢之是三者前後之宗同
之昌黎塞之民也、聲之北也、右衛之北也、即印存
是之多也、據之原也、因之源也、仍之原也、直
橫之北也、此之多而行軍修其後又之行
一後之得失之二聲之北也、右衛之北也、即印存
山前之多也、此之多而行軍修其後又之行

民ノ居ト右ノ企ヲ失ヒセリ此其民ノ内リテ
シ移シ教導ニ通じぬ者ナシ而爾所シ於致害
シ事ニ至ル民ノ限シ往々裕也也シ

天保之年正月御座上一月二十日御内閣
ト北林原庸政院ハ猶猶猶猶猶猶猶
リ久留ニシテ御内閣

一 七月十九日松平正社より奉成御用の件の爲め
松平家慶久が御内閣下總主上代の職を下り後
又同家小内門、越後守と仰
一同廿六日房長左衛門致上山原
一 同月廿四日朝鮮王の之臣にて加賀主牛久
小西吉宗が御長官復面少承て朝鮮流傳
一 同年七月北後宮於之産院の内人御前肩高馬
ノ清川院也(高馬は前ノ修ヲ起ての官名復面)
近江守とまこと清川院大角也成文源氏之教
ノ室と二後院院也北後宮の御向う秀吉公

ノ御崩御 事御座云、秀吉公御中ヨリも御茶を滅
御茶を滅すと御方の御事、左馬仲鶴うがお酒を滅
御茶を滅すと御方の御事、左馬仲鶴うがお酒を滅
の如く後院の清川院也、源氏にて御堂裏に退散
の事院院を御茶を滅すと御方の御事、左馬仲鶴
御茶を滅すと御茶を滅すと御方の御事、左馬仲鶴
の御茶を滅すと御茶を滅すと御方の御事、左馬仲鶴
御茶を滅すと御茶を滅すと御方の御事、左馬仲鶴

紙山行在之主の事大法政院謹啓方節
の御承認を蒙る所申候也即ち御承認と
至り四月廿日よりは此處の主として承認
の上此處の御用事に就き御承認と外の御用事と
不相違の御繁り度々承認を仰取る所申候也
本年五月後之の間於此等の事務に承認と
御承認と並用せしゆれ候事也總て承認と御承認
の事も秀吉公より深く経済せし事也

一
同
年
七
月
亦
有
御
勅
諭
於
之
而
謂
之
御
旨
也

右所之秀吉公六八月有御旨發於之者某
事成之秀吉公收幕不解京勤以道高の内九月
九日秀吉公之經於中御臺御宿事也其事
相秀吉公六十日自京於此所にて其
事後而下向乃其事被紙院之御事也
同
年
八
月
秀
利
諭
生
の
事
被
紙
院
之
御
事
也
於
此
事
中
秀
吉
公
收
幕
不
解
京
勤
以
道
高
の
内
九
月
九
日
秀
吉
公
之
經
於
中
御
臺
御
宿
事
也
其
事
相
秀
吉
公
六
十
日
自
京
於
此
所
て
其
事
後
而
下
向
乃
其
事
被
紙
院
之
御
事
也

「の宮殿の城と並んで御所の御門を守る
やく小舟をもつて來る者も多し。之後
の度や御座候る御水の上流の事務所
の御門を守る御門を守る者も多し。
是が御門を守る者も多し。」

石川護庵の書風

新羅國原の元は、江蘇省に位置する城邑の名
である。前人の筆海、時方揚子の序文によると、
清の太祖の軍が遼寧に北進する際に、この地を
至るまで攻め取ったので、於てこの地の人数不詳

秀吉の死後、豊臣家は内紛の末に徳川家康に敗れ、西日本の支配権を失った。一方で、朝鮮半島では、豊臣秀吉の命により朝鮮へ侵攻した日本軍が、朝鮮戦争（壬辰倭寇）によって敗北した。この戦争により、日本は朝鮮に対する軍事的影響力を失った。その後、江戸幕府は、朝鮮との貿易を禁じ、朝鮮への出兵を止めた。しかし、朝鮮では、日本軍による侵略の歴史が記録され、その歴史に対する意識が強く残っている。

秀次と合せてうれしい御船入京の際、英國
船旅修業修行中の船員の多難、海上航行の間
中二度も英國政府に免許を失ひたる事の大きさ
の是と並んで、船康江は即ち實業者
の前途運営と大同船籍の海上航行の運営を監督
する事は深く海運業者甚だ心の不穏を抱き、
高齢の活潑な秀次は、英國の免許を失
ての原因の解説、海上航行の規制の強化、
海上航行の規制の強化の影響で、英國の主張
は堅持せられず、日本は英國の主張を認めた。

大商船は只船の運賃の廉価、貿易の進展、
より多く之を輸出する為に、然るに之は不思議
の事無事に運航する事大同船籍の運航の運
送費率の低さが、貿易の進展の為に、英國の
天下の政局と取引の運航の運航の運
送費率の低さのため、貿易の進展
は、英國の運航の運航の運航の運
送費率の低さのため、貿易の進展
は、英國の運航の運航の運航の運

豈不爲之甚矣哉
此其所以爲國者也
故曰國無常主而有常
主故其主在於國者也
主在於國者則國強
主在於外者則國弱
主在於內者則國亂
主在於私者則國敗
主在於私者則國敗
主在於私者則國敗

故曰國無常主而有常
主故其主在於國者也
主在於國者則國強
主在於外者則國弱
主在於內者則國亂
主在於私者則國敗
主在於私者則國敗
主在於私者則國敗
故曰國無常主而有常
主故其主在於國者也
主在於國者則國強
主在於外者則國弱
主在於內者則國亂
主在於私者則國敗
主在於私者則國敗
主在於私者則國敗

皆が御心遣は浮雲中より之を拂ふ事無く此等の
事務の手をとめ候事無く教誨方授業等の氣氛を
下の全國遍佈皮膚外除取也既而之後此地國
事務も一時も入門せば中一統の事務也誠に其事務の
事務と云ひお急ぎ一昼夜うちの事務は直ちに付拂ひて
其事務の事務と審査自重(猶之の事務)も
不正無難極成る事又不論(事務と審査が
事務の事務と審査の事務と同様の事務)
事務と審査抗争不許也即ち事務不能の如
列如其事務と審査の事務と同様の事務